



特別  
14  
696  
175



696  
175

小寺  
玉日  
文彦

大鶴菴塊并評



許大主人



一二輪  
小つむや  
冬は梅  
寺は仕事  
小書成  
まろり  
り梅  
もさくら  
了  
衆の  
邦  
う  
すも  
んや  
と申  
あそ  
不  
二  
の  
山  
石  
橋  
小  
夕  
日  
光  
も  
了  
了  
衆  
の  
邦  
こ  
も  
も  
も  
も  
一  
節  
乃  
や  
梅  
舟  
山  
も  
も  
川  
越  
て  
送  
る  
左  
の  
屯

花咲の雲を看も空ふたり  
道乃にゆつづく栲や啼雲雀  
桐栲と神蝶空ををりたり  
射点六とこの程を竹生傳  
猿もやいのありけりさるる  
風と猿もとととぬ木栲  
黄一もい方の年より栲の宮  
あうし其中へ入り松の風

栲とととと風の吹来や栲の月  
軽風や栲の中ととと  
雲雀啼小栲を越る水車  
松原や花の車に而車  
枇杷の花は七こありあり  
松青く栲をさる栲  
しきや風と栲と竹の門  
首分や大栲のありし栲

迴文

善州を果上門のさくら坂  
ゆきゆきのまはるる雪のた  
ゆきゆきをゆくまはるる雪のた  
年の善者こそゆきゆきのた  
ゆきゆきや雪のつれよまの屋根  
雛子啼やゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきや雪のつれよまの屋根  
ゆきゆきや雪のつれよまの屋根  
ゆきゆきや雪のつれよまの屋根

雪雪やゆきゆきゆきゆき  
田の水のゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきや雪のつれよまの屋根  
松山乃奥子里ゆきゆきゆき  
○ 雪解や雪のつれよまの屋根  
春ぬやねあまゆきゆきゆき  
善州のたはゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきや雪のつれよまの屋根

見く居れ、そのまゝに

淋くや七幸は慈也哉

十雀子の頂よぬ誠は母也

○春の雨の中の中を歩の

○さゆよ舞をよ飛をひさる

○飛節と舞く居るもはるや

杯らん言や酒は居るも柱木買

畑寺や水先、中くる

秋水や是、汝の一日味

長田や世、りめの秋味

十 離見、ささくきせ、行路の宿

春夜やわの月、五位の七

○ 春の由やと、ささくきせ、春の音

水にやと、ささくきせ、水

○ 春世、ささくきせ、狗はれと

学やちと、切き、ささくきせ

大いものおもひの想ひ

長閑なる水に流るる

物にのほろほろと

細くも竹のうら

春の雨を降らす

風よそよそと

十春乃水も

風よそよそと

○雨をまの梅へ流るる

雛もよそよそと

○川をまの山に流るる

まよふもよそよそと

空をまの空に流るる

夕涼もよそよそと

暮らもよそよそと

あつたのりともよそよそと

桐の森をへりてのらるる

○月影のくまの海に

影をよほしむらさきの

○旅人と涼よりしるしの

+ 道ゆくまのまのまの

月影の所へてをりて

り涼月の名所よくと

りてのまのまのまの

○花のまのまのまの

夕まのまのまのまの

秋まのまのまのまの

○まのまのまのまの

暑日や蜂のまのまの

○涼月しるしのまの

○林のまのまのまの

○林のまのまのまの

感見傳 百日紀

○今やまゝの火をきくまゝに

少業をたすけしる物に

十 雲の身の人をうけんとて

月をまよふ人き録

せしむる言ふ事なきを

時雨のそとをしのぶ

十 雲の女をきくまゝに

此の書は其家の物語

あるの書物に記す

事しるの事年越す

若くも若くも中の

年一もなきこと

と記すや物語に

○七の月の日は

此の月の日は



一 柳 緑 色 草 花 草 花 草 花

○ 柳 花 草 花 草 花 草 花 草 花

○ 草 花 草 花 草 花 草 花 草 花

○ 草 花 草 花 草 花 草 花 草 花

○ 草 花 草 花 草 花 草 花 草 花

○ 草 花 草 花 草 花 草 花 草 花

○ 草 花 草 花 草 花 草 花 草 花

○ 草 花 草 花 草 花 草 花 草 花

○ 草 花 草 花 草 花 草 花 草 花

○ 本の 精 造 出 し 出 づ 入 番 あり

下 へ 出 出 出 送 あり 番 卸

体 へ 入 出 入 入 の 余 じ し ぞ

才 へ 具 具 具 具 具 具 具 具 具

骨 也 精 木 花 花 花 花 花 花

花 草 草 草 草 草 草 草 草 草

茶 花 花 花 花 花 花 花 花 花



まのふにききこや秋のぬ

ゆりてふいふいふあふ言又

ふ茶をのむいふいふいふいふ

霜のぬえふいふいふいふいふ

露子う言いふいふいふいふ

生海海いふいふいふいふいふ

頭中いふいふいふいふいふ

とーいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふ

○真のいふいふいふいふいふ

○行秋いふいふいふいふいふ

⊕美茶いふいふいふいふいふ

音信いふいふいふいふいふ

而いふいふいふいふいふいふ

⊕見いふいふいふいふいふいふ

○かみいふいふいふいふいふいふ

えねわねのころま 湖のこころ  
斬りしころま 女流のこころ  
山後ふらふら 女流のこころ  
○若御のこころ 女流のこころ  
行まらぬ 女流のこころ  
端のこころ 女流のこころ  
端のこころ 女流のこころ

元日如我のこころ 女流のこころ  
子歳如折月 女流のこころ  
空のこころ 女流のこころ  
空のこころ 女流のこころ  
空のこころ 女流のこころ  
空のこころ 女流のこころ  
空のこころ 女流のこころ

あはれきしむるあはれ  
の徳の者なりけり  
まよふも  
若の知れぬもの  
り  
○  
読むと書くと  
あはれ

あはれきしむるあはれ  
の徳の者なりけり  
まよふも  
若の知れぬもの  
り  
○  
読むと書くと  
あはれ

けいせいのていしんかんのしんがいのま  
花の枝の葉のいろよしのけいせいの  
海のものにさかすまのいろよしの  
くまのていしんかんのしんがいのま  
よしのまのいろよしのけいせいの  
かしのいろよしのけいせいの  
このまのいろよしのけいせいの  
このまのいろよしのけいせいの

けいせいのていしんかんのしんがいのま  
花の枝の葉のいろよしのけいせいの  
海のものにさかすまのいろよしの  
くまのていしんかんのしんがいのま  
よしのまのいろよしのけいせいの  
かしのいろよしのけいせいの  
このまのいろよしのけいせいの  
このまのいろよしのけいせいの

Handwritten text in cursive script on the right page of an open book. The text is written in a fluid, connected style across ten lines.

Handwritten text in cursive script on the left page of an open book. The text is written in a fluid, connected style across ten lines, mirroring the layout of the right page.



























りしむるものまじりしことあり  
りしむるものまじりしことあり  
ぬきしむるものまじりしことあり  
まじりしむるものまじりしことあり  
ぬきしむるものまじりしことあり  
まじりしむるものまじりしことあり  
ぬきしむるものまじりしことあり  
まじりしむるものまじりしことあり  
ぬきしむるものまじりしことあり  
まじりしむるものまじりしことあり

つらがりしむるものまじりしことあり  
ぬきしむるものまじりしことあり  
まじりしむるものまじりしことあり  
ぬきしむるものまじりしことあり  
まじりしむるものまじりしことあり  
ぬきしむるものまじりしことあり  
まじりしむるものまじりしことあり  
ぬきしむるものまじりしことあり  
まじりしむるものまじりしことあり  
ぬきしむるものまじりしことあり

新つらきこゝろは枝ありの一角のふ  
社へ<sup>の</sup>たつらきまはるこゝろはま  
ふとあゆむと思ふこゝろのふ  
政とこれた嬰の種や外同ふ  
目とつらきふと我れ入給ふ  
天下はなきふのつらきふ  
ふとあゆむと思ふこゝろのふ

葉と穂と花むすはるこゝろはま  
まのこゝろは枝ありの一角のふ  
ふとあゆむと思ふこゝろのふ  
青くこゝろは枝ありの一角のふ  
ふとあゆむと思ふこゝろのふ  
ふとあゆむと思ふこゝろのふ  
ふとあゆむと思ふこゝろのふ  
ふとあゆむと思ふこゝろのふ  
世はなまふと思ふこゝろのふ







一升とわとくくとつし物  
田のあまのうらハ折ひし片の片  
片の片 瓢とさるく 指をさる  
左り 斗さくさるく ちをさる  
其まよ子 上まし 九州 木取の  
片然白 ちをさるく ちをさる  
片然白 ちをさるく ちをさる  
くはて ちをさるく ちをさる

十  
片然白 ちをさるく ちをさる  
神々のあまのうらハ折ひし片の片  
片の片 瓢とさるく 指をさる  
左り 斗さくさるく ちをさる  
其まよ子 上まし 九州 木取の  
片然白 ちをさるく ちをさる  
片然白 ちをさるく ちをさる  
くはて ちをさるく ちをさる







首のしほむのふたりのひら  
侍をの 呼しよふては  
清藤の御印をのち  
ゆいりつとすのむきあは  
極りぬかしてふては  
十人あふたしゆきそのり  
くいさう 舞臺のち  
塔の場をふとる 勝の





